

実践ライブラリー：小学部 せいかつ「びっくりウナギをつくろう」

- ・「せいかつ」の学習で何をするのか、わかりやすいといいな。（見通しをもちたい）
- ・先生や友だちの反応が見たいな。（やりとりをしたい）

- ・「せいかつ」の学習を楽しみな学習にしたい。
- ・「安心感」と「やり応え」を感じさせたい。

① おはなしの時間

制作する作品の完成品を見せたり、学習の流れを視覚的に分かるようにしました。「スイミー」を題材にした制作なので、絵本を見ながらスイミーの世界観をイメージし、「今日は長～いウナギを作るよ！」と目的を提示しました。

びっくり箱になりまーす！



これ作るの？
〇〇先生に見せたい！



② つくる時間

制作は、児童にとって難しすぎないユニットを複数個作るなど、数の目標を立てたり、終わりが明確に示せるようにしました。「長いつてどれくらいだろう？」「先生の見本より長くしてみよう！」「長くしたらびっくり箱からどう出てくるだろう？」とワクワクした気持ちで取り組みました。

おすすめポイント

3部構成の学習の流れで一貫して取り組み、学習内容に対する不安感や取り掛かりにくさがなくなりました。

一つずつはかんたん！
一人でするよ！



③ みる・あそぶ時間

「作っておしまい」ではなく、発展的な活動として「見たり遊んだりする」ことを大切にしました。制作したものを友だちと共有したり、他クラスの教師に披露したり、学習後も遊んだりするなど、児童自身が「こうしたい」を考える土台になりました。



おすすめポイント

「周りから反応をもらえるもの」だったことが、期待感ややり応えにつながりました。見せる人や見せ方を変えて楽しめていました。

見てや見てや！
びっくりするで！